

- 1 日時 2022年10月24日(月) 10:00~12:10
- 2 会場 飯田文化会館2階会議室およびオンライン
- 3 テーマ 変革期における住民団体の新たな三遠南信交流
—これまでを振り返り、これからの交流を考える—

4 目的

三遠南信住民ネットワーク協議会は、2022年で設立10年を迎えた(2012年6月発足)。当協議会の発足以前から愛知、静岡、長野の県境域で活動する地域づくり団体同士が、三遠南信地域の県境を越えた交流と連携活動に関心を持ち、手を結んで交流を重ね、つながりを深めてきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ2年あまりの間は、各会員の活動や会員同士の対面での交流は制限されたものの、オンラインツールの導入によって、新たな交流機会の場が創出された。今後はコロナ収束を見据えた新しい交流のあり方や地域づくり活動が求められ、それに対応することが重要となってきた。

そこで、今回の住民セッションでは、社会の変革期において、これまでの三遠南信地域の住民団体交流の歩みを振り返り、これからの交流・連携・協働のあり方や課題について考える。

5 プログラム

開会あいさつ 代表世話人 吉田 弓
趣旨説明・住民団体交流の歩み 事務局 平川雄一

第1部 これからの交流のあり方を体験する

「ミニバーチャル観光ツアーで秋の奥三河のおまつりを体感する」

ガイド：NPO てほへ／東栄町観光まちづくり協会

第2部 意見交換・総合討論

ファシリテーター：監事 水島加寿代

会員活動報告

総括・閉会あいさつ

副代表世話人 山内秀彦

6 バーチャル観光ツアー・意見交換要旨

(1) 三遠南信の住民団体交流の歩み

- ・1990年代に三遠南信地域整備計画調査が始まって以来、三遠南信の産業振興交流、文化振興交流などを通じて交流が見られるようになった。

- ・2000年前後には、人的交流を目指す団体が組織されると同時に、三遠南信地域の情報が紙媒体とインターネットによって発信されるようになり、交流を促進するきっかけづくりが目指された。
- ・三遠南信サミットでの「住民セッション」の設置や NPO による三遠南信交流イベントが企画され、念願だった三遠南信交流に関心を持つ住民団体や個人をつなげるための組織「三遠南信住民ネットワーク協議会」の設立が実現した。
- ・コロナ禍を通じて、これまで交流の形だけでなく、新しい交流の形やありかを考えていく必要ができてきた。

(2) バーチャル観光ツアー（ミニ版）

- ・オンラインを活用したバーチャル観光ツアーを試行的に実施し、新しい観光のあり方を体感してもらうことを狙いとした。
- ・今回は東栄町の「和太鼓志多らの稽古場」と「花祭会館」の2地点を中継で結び、当日10分程度の時間でライブ配信した。
- ・インターネット環境や映像・音響設備により配信に多少の影響が出てしまう場面もあったが、おおむね計画通りの配信ができた。
- ・今回のバーチャル観光ツアーの試みは、環境が整備されると新たな形の交流が実現できる可能性を感じられる取り組みとなった。

(3) 意見交換

水島加寿代（NPO 法人三遠南信アミ／浜松市）

三遠南信アミではこれまで三遠南信の様々な地域へ訪れた。コースなどの蓄積をバーチャルで見せていく取り組みができそうである。

鈴木達也（くらし・ビジネス・サポートセンター／新城市）

リアルとバーチャルで伝えるものの使い分けが重要である。太鼓などの音楽はリアルでないと伝わりにくい。一方、ドローンを活用すれば、行ったことがない場所や見えない場所が見えることを改めて感じた。

加藤正敏（みなと塾／豊橋市）

情報発信が弱いので三河湾・六条潟の大切さが広まっていかない。今回のバーチャル観光ツアーをみて情報発信の重要性を感じた。時代が進んでいることが実感し、これからうまく取り入れていきたい。

水上一文（三遠南信地域を学ぶ会／豊橋市）

コロナ禍の影響で2年間集まることができず、会の活動が停止していた。解散などが検討されたが、会存続を希望する会員が多数あったため、これから活動を再開することとなった。インターネットやバーチャル観光ツアーを会の活動の中に取り入れることで可能性が広がっていくことを感じた。

吉田 弓（南信州 和合むら／阿南町）

バーチャル観光ツアーの映像を見て新たな可能性を感じたのと同時に、バーチャル配信を無理なく実施することが重要である。ライブ配信だけでなく、動画を撮っておいて後日公開することも有用である。また、人的ネットワークを活用して映像を製作することもよいと思う。

清水良文（NPO 法人てほへ／東栄町）

我々のNPOでも奥三河を対象にして映像配信を継続している。

大脇 聡（NPO 法人てほへ／東栄町）

NPO 法人てほへでは、「奥三河のき山放送局」という動画共有チャンネルを持っており、これまで月に1本のペースで地域や人・団体を撮影して紹介する映像を配信してきた。要望があれば、三遠南信地域の各地に赴き、撮影や配信協力したいと考えている。三遠南信住民ネットワーク協議会としてもこうした活動を展開できる可能性もある。

山内秀彦（NPO 法人地域づくりサポートネット／浜松市）

コロナ禍でオンラインが増えてきた中でリアルの良さも見直されてきた。地域づくりサポートネットではサイクルツーリズムを推奨していて、実際に現地を走ることで自然の景色や風の音などを体感でき、現地でしか感じるできないものを得ることができる。オンラインやバーチャルは現地に行きたくなくなるきっかけづくりとしてはとても有用である。

富田達郎（地域おこし協力隊／東栄町）

バーチャル観光ツアーは、これまでの形の単なる置き換わりではなく、新しい手法として見るべきであり、将来性を感じている。情報発信だけでなく、旅を楽しむツールとしての役割もあると感じている。現地で行かなくては感じられないことをオンラインで伝えるには、ガイドも重要となる。

渡邊美津子（飯田カネト合唱団／飯田市）

カネト合唱団は、コロナ禍で公演活動ができない状態が続いてきた。そうした中で、「公演」ができないことから「講演」を取り入れることによって、川村カネト氏の功績や飯田線の歴史を子どもたちに伝える活動が行うことができた。

矢澤律子（みらい企画 律／飯田市）

コロナ禍になって、外出を控えたことによってテレビでドローン映像をよく見るようになった。普段見ることができないところを撮影することができるので、三遠南信地域の見えない部分を撮影して情報発信することが必要であると感じた。

野田賢司（豊川流域圏通貨バンク協議会／豊橋市）

バーチャル観光ツアーを通してリアルに体感することができた。豊川と三河湾の自然を太

鼓演奏で創作することで今後の交流によいのではないかと感じた。オンラインを通じて山間部と海岸部の日常の生活を発信することで若い世代も関心を寄せて、持続可能な振興につながる可能性も出てくるかもしれない。

高柳俊男（法政大学）

個人的にオンラインを通じて和太鼓志多らの演奏を聴いてきた。三遠南信の住民団体の交流の歩みを知って、交流のあり方などに改めて振り返ることができた。

小粥康正（秋葉古道の歴史と自然を愛する会／浜松市）

コロナ禍になって以前よりも自然に触れる人たちが増えてきた。新東名高速と三遠南信道が開通してアクセスがよくなったことで新城市の乳岩峡へ来訪者が多くなった。こうした点において稼ぐ可能性が見出せてきた。稼ぐ仕組みを作って若い人を引き込むことやターゲットを明確にして集客することが重要で、バーチャル観光ツアーにもその視点を取り入れることが必要である。

(4) 総括

三遠南信アミではこれまで三遠南信の様々な地域へ訪れた。コースなどの蓄積をバーチャルで見せていく取り組みができそうである。

7 当日の様子



[本会場]
現地参加とオンラインでつながった会場



[バーチャル観光ツアー①]
ライブ配信で稽古場の紹介と生演奏



[バーチャル観光ツアー②]
ライブ配信で花祭会館の紹介と舞の披露



[本会場]
現地とオンラインでの参加者との意見交換